

B P 速報

アクサ生命とKDDI、ヘルステック研究などで協業

2017年12月28日 18:00



アクサ生命保険とKDDIは、IT（情報技術）と医療を組み合わせたヘルステックの共同研究とヘルスケアサービスの協業を開始すると2017年12月25日に発表した。

ヘルステックの共同研究では、（1）医療分野における課題解決やIT化を推進するためのサービスプラットフォームの構想・企画・開発、および（2）ヘルスケアサービスの協業で得られた知見・データに基づく新規事業や商品、サービスの開発を手掛ける。アクサ生命の医療保障分野などでの経験と、KDDIのソリューションサービスやあらゆるモノがネットにつながる「IoT」、位置情報ビッグデータなどに関するノウハウを融合する。

ヘルスケアサービスの協業については、健康診断の受診率向上や生活習慣の改善など医療分野における課題解決を目的として、自治体や医療機関と連携しながら進めていく。協業により得られたヘルスデータを活用することで、新たなサービスや商品の開発なども共同で推進するという。

アクサ生命は健康経営の普及啓発活動を進めており、一部地域で「アクサ メディカルコーディネーションサービス」を導入している。同サービスは、がんや生活習慣病の早期発見・早期治療を目的としたプログラム。健康診断受診や疾病の早期治療をサポートすることで、顧客が早期に疾病から回復することを支援する。同時に、自治体や健保組合が負担している医療費の削減にもつなげる。このプログラムにKDDIの自宅でできる血液検査サービス「スマホdeドック」を組み込むことで、自宅で簡易に血液検査を行えるようになるとしている。

アクサ生命は、顧客の生涯に寄り添うパートナーをうたい、顧客の健やかで幸せな生活を守るアドバイスやサービスの開発とその強化に取り組んでいる。KDDIは通信事業を通じて培った経験と経営資源を生かし、ヘルスケアサービスを強化していく考え。

（日経デジタルヘルス 大下淳一）

【日経テクノロジーオンライン 2017年12月27日掲載】

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI No reproduction without permission.